

富山シティエフエム

令和4年度第5回～8回番組審議会（合同開催）

1. 開催日時

令和5年3月22日（水）午後3時～

2. 開催場所

富山市安住町2-14 北日本新聞社10階会議室

3. 出席委員

委員総数6人

出席委員6人

出席委員の氏名（◎委員長、○副委員長）

◎徳永 洋介（富山大学教授）

○大井 秀樹（富山商工会議所中小企業相談所長）

栗山 朋子（富山市企画管理部広報課長）

下坂 晃司（富山青年会議所副理事長）

平島亜由美（北日本放送メディア本部コンテンツ局次長）

澤 聡美（富山大学講師）

放送事業者側出席者

中田 洋志（富山シティエフエム常務取締役）

小原 源（同 放送部長）

4. 議題

①開局25周年記念企画「昔話(むかしばなし)に思いをのせて」

放送：令和4年12月30日（金）午後5時30分～6時00分

【番組内容】

周年事業の一つとして「伝えること」をテーマに番組表と連動させた企画を実施。レギュラー番組「越中むかしものがたり」でナビゲーターを務めるフリーアナウンサーの車吉章さんを講師に、保育士を目指す富山短期大学の学生有志に「読み聞かせ講座」を開講。参加した学生が後日、子どもたちに「むかしばなし」を朗読披露した模様と合わせて、特別番組を制作放送。番組表でも様子を伝えた。

【委員の意見】

「言葉を口で伝えること」の大切さを再認識した。企画アイデアはすばらしいが、ターゲットを絞り込むことや、なぜ「昔話」を題材にしたのかななどを明確にし、且つ番組冒頭でしっかり紹介する方が聞き手に伝わりやすいものになったのではないか。

②「北日本文学賞選奨作品朗読」

放送：令和5年2月11日（土・祝）午後3時00分～5時00分

【番組内容】

第57回北日本文学賞で選奨を受賞した2作の朗読と作者インタビューで構成。同賞は北日本新聞社が主催し、現在、宮本輝さんが選者を務め、元日に受賞者が発表される短編公募展。提出回は大阪市の平石蛹（さなぎ）さん作「渦の底から」。富山シティエフエムでは20年ほど前から毎年、選奨2作の朗読番組を実施しており、第50回以降は朗読部分をホームページに掲載、いつでも聴けるようにしている。

【委員の意見】

朗読は落ち着いたトーンで良かった。ドラマ、朗読、語りなのか迷うところ。もう少し「美しくまとめ」なくても良いのかも。BGMがクッションになって良かった。作者インタビューがあることで、作品を深いところで理解できた。朗読の前にあると良いと思った。

③「日々是好日」

放送：令和5年2月1日（水）午前10時00分～11時00分

【番組内容】

シンガーソングライターのよしもとかよさんがナビゲートする1時間。暮らしの中で見つけたちょっとした嬉しいことなどを、自身の視点から紹介。音楽を交えて構成している。提出回は放送通算100回目。

【委員の意見】

パーソナリティの個性や人柄が良く出ていて、ゆったりと楽しく聞けた。音楽のセレクト、トークとの間隔がとても良い。紹介している日常の気付きなどに共感できる。適度な脱力感があり親しみやすさを感じる。

④モーニングシティ内「朝刊拾い読み」

放送：令和5年1月27日（金）午前8時21分～40分頃 生放送

【番組内容】

平日朝の情報番組「モーニングシティ」内で届けているコーナー。北日本新聞社の記者が生出演し、その日の朝刊から話題をセレクトしながらわかりやすく紹介している。提出回は宮田記者出演時の模様。同コーナーは今年3月から、北日本新聞の

総合情報サイト「ウェブプラス」で音声配信をスタート（当日午前中に配信）。

【委員の意見】

記者のキャラクター、持って行き方で、興味がないジャンルのニュースでも入りやすかった。新聞を読む習慣や時間がない人にとって、貴重な情報源になっている。地方紙の強みを生かして、富山らしさから全国のニュースに結び付けて紹介しても面白い。パーソナリティの合いの手がもっと入ると良い。

以上